

EV車の走行中の 急な電池切れに駆け付ける 給電車を開発



全世界的に自動車は極端なEVシフトを政府主導で行っており、エンジン車輛の生産を打ち切ることが表明するメーカーも相次いでおります。ユーザーの立場から考えますとメーカーがEVシフトをいかに推進しても充電インフラの不安は、そう簡単に払拭できないのではないのでしょうか。EV車充電は自宅、ディーラー、サービスエリア、スーパー等の公共施設となっていますが、急速充電しても最低30分、しかもバッテリー残量計の1メモリ分しか充電できなかったという話もよく聞きます。

当社は、カーディーラー様から、EV車に給電できる車輛の開発の問い合わせがあり、給電車の開発に成功しました。

普通免許で運転可能なトラックに発電機と充電器を搭載し、バッテリー残量が5割から8割に充電する場合で15分(日産・

リーフの場合)を可能としております。

寒冷地においては、暖房に電力を取られ思ったほど走行距離が伸びないことも想定されることから、「給電車」はカーディーラー様の道内外の店舗に順次設置する計画としております。

EVの歴史は失敗の歴史でもありましたが、当社の開発した「給電車」の普及でEV車を安心して利用いただける環境を作り、2018年の北海道胆振東部地震時に発生したブラックアウトのような災害時にEV車をキーとした社会インフラ構築に貢献してゆきたいと考えております。EV車の普及に不安をお持ちの事業者様におかれましては、一度ご相談いただき一緒に対応策を考えさせていただけましたと幸いです。



北海道電気相互株式会社

〒006-0820 札幌市手稲区前田10条11丁目1-10
TEL : 011-299-6905
E-mail: info@denkisogo.jp

